

大阪府河川周辺地域の環境保全等審議会

第10回 安威川ダム環境改善放流検討部会 議事要旨

開催日時	令和2年2月5日(水) 13:30~15:30
開催場所	大阪府安威川ダム建設事務所 5階 大会議室
出席者	池委員、竹林委員、森下委員、○養父委員 計4名 (○:部会長、敬称略、五十音順)
概要:	<p>環境改善放流計画のうち、土砂還元計画及び効果把握調査計画について審議した。</p> <p>【資料1】環境保全等審議会スケジュールについて</p> <ul style="list-style-type: none">・資料1についての委員の主な発言は以下のとおり。 特になし <p>【資料2】環境改善放流計画(土砂還元計画)について</p> <ul style="list-style-type: none">・資料2についての委員の主な発言は以下のとおり。 <p>池委員</p> <ul style="list-style-type: none">・土砂還元は河川管理を総合的に行っていく上での一つの施策という位置づけであり、土砂還元だけで課題が解消されるわけではない。 <p>竹林委員</p> <ul style="list-style-type: none">・既往の河床変動解析では、2mm以下の土砂を対象としていないため、置き土の必要量の把握はできない。・置き土のスペース等の制約など総合的な観点から、置き土の可能量の検討が必要ではないか。・大阪府として、ダム供用後の細粒分を含めた河床の変化を予測しておく必要があるのではないか。・現地置き土試験でのトレーサー調査からは、置き土が下流河床に及ぼす変化がどこまで及ぶかを把握することはできない。 <p>森下委員</p> <ul style="list-style-type: none">・2mm以下の土砂も間隙生物といわれるユスリカや水生昆虫の幼齢期の生息場として機能していると考えられる。 <p>養父部会長</p> <ul style="list-style-type: none">・置き土量は置き土場所の余地とともに、施工性(土砂の運搬台数や費用など)の面からも検討する必要がある。

開催日時	令和2年2月5日(水) 13:30~15:30
開催場所	大阪府安威川ダム建設事務所 5階 大会議室
出席者	池委員、竹林委員、森下委員、○養父委員 計4名 (○: 部会長、敬称略、五十音順)
<p>【資料3】環境改善放流計画(効果把握調査計画)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料3についての委員の主な発言は以下のとおり。 <p>池委員</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査結果に対する評価と対応方針を検討しておく必要があるのではないか。 <p>森下委員</p> <ul style="list-style-type: none"> 河床材料の調査では、2mm以下の細粒分も把握しておく必要があるのではないか。 フラッシュ放流調査は、フラッシュ放流を実施している間は実施すべきではないか。 <p>養父部会長</p> <ul style="list-style-type: none"> フラッシュ放流の目的で「砂礫河原の保全」とあるが、フラッシュ放流の最大放流で砂礫河原の保全が可能なのか。 長期的調査はどの程度の期間を想定しているのか。 一般に誤解を与える恐れがあるため、語句の使い方に留意すること。 <p>【傍聴者からの意見】</p> <p>(意見なし)</p> <p>【事務局からの報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本日の部会資料については、部会終了後に修正の上、大阪府ホームページにおいて閲覧ができることを報告します。 	